

東京・地理教育研究会 2024年7月例会

白石ユリ子さんとコートジボアール

さかなから世界が見える～アフリカですり身ワークショップ

- 日本は海と魚に恵まれた国
- わたしがウーマンズフォーラム魚、NPO海のくに・日本の活動を始めた理由
- 魚をめぐる取り組み
- クジラをめぐる取り組み
- アフリカとの最初の出会いは2000年。
- 2011年、アフリカから頼まれて「すり鉢」をもってモロッコへ。
- 魚の利用法が少ないアフリカに、「魚のすり身」を教えよう。
- コートジボワールの貧しい漁村女性の生活改善を目指す。
- あらためて、魚の栄養はすばらしい。
- 栄養学で、アフリカ全体を健康にしたい。

地教研の友好団体である NGO「ウーマンズフォーラム魚」代表の白石ユリ子さんは、NPO「海のくに・日本」の理事長でもある。白石さんは、2011年からアフリカに通い、日本の伝統的な魚の加工法である「すり身」とおとして、アフリカ各地での栄養改善、水産資源の有効活用に取り組んで来た。コートジボアールでは、2016年から活動を始めた。日本の外務省の援助を得て、首都アビジャンに「すり身センター」を建設。現地の女性たちの自立のために、すり身のハンバーグの作り方から始まり、商品化と販売までの教育を行っている。

(谷川尚哉・記)

日 時:2024年7月6日(土)14:30～17:00

会 場:中央大学・茗荷谷キャンパス・2階 2E05教室

東京都文京区大塚1-4-1 東京メトロ・丸の内線「茗荷谷駅」徒歩1分

※入口入って、左のエレベーターで2階に上がってください。出て、左へ行ったところの教室です。

講 師:白石ユリ子さん(「NPO 海のくに・日本」理事長)

参加費:500円